

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・頻繁にクルーズ客船が寄港し、商店街に人が流れてかなりにぎわっており、販売にもつながっている。また、地元住民も3月と4月に歓送迎会や花見を行い、新型コロナウイルス感染症発生前の様子に戻っている。
	○	自動車販売店（役員）	それ以外	・受注制限車種の減少に伴い受注が増加している。
	○	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・車の販売価格は上がっているが、客の購入車種は高級グレードが人気で、売れている。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・当地域及び近隣の地方空港への直行便によるインバウンド効果が出始めており、日本人観光客の足踏み分を補っている。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・タクシーの全体的な稼働率は40%前後で、個人タクシーの場合では50%以下と客が少なくなっているものの、実車率は良くなっている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・今年は四国遍路がうるう年で逆打ち御利益の年のため、各旅行業者が力を入れており、通常のタクシーの利用がほとんどなく、ジャンボタクシーでの送迎が行われている。その結果、売上は増えており、街の方もそれなりに売上は増加している。
	○	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・3か月前と比べて売上はやや良くなっている。給料が上がる期待感から前倒して遊興費に回ったとみられる。
	○	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築費は単価的に高止まりにあるとみられる。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・顧客の動向が変化しており、以前と比べて仕事関係ではなく家族や友人関係が重視されているようにみられる。また、燃料価格の高騰や資材の値上げ等が響いてきており、難しい局面が続いている。
	□	商店街（常務理事）	販売量の動き	・インバウンドや国内観光客の増加で街ににぎわいや活気はあるものの、観光、宿泊関連だけが好調で、その他の消費環境は良いとはいえない。生活防衛色が強く、メリハリのある消費行動が多くみられ、しばらくは改善されないとみられる。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・繁華街の人流も新型コロナウイルス感染症発生以前の水準に戻ってきている。仕入価格が大幅に上昇しているため販売価格も上がってきている。その結果、来客数は増えているが、手頃な価格の商品を購入する傾向が強い。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・少子化やデジタル化の影響で、新学期の学校販売は年々売上が減っているが、外商売上が好調であり、学校販売のマイナス分をカバーすることができた。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・来客数は前年並みであり買上点数に変化はみられない。
	□	スーパー（統括担当）	来客数の動き	・物価高の影響で客単価が上がっている状況は変わらず、来店者が減っており、財布のひもが固いと考えられる。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・今年の3月以降、来客数の前年とのかい離幅が拡大しており、今月の売上は前年割れとなっている。
	□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・物価上昇に伴い客単価は上昇しているが、買上点数と来客数が減少している。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・今年に入ってから、前年と比べて来客数の減少傾向が続いている。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・株価の上昇と比例して円安が進んでおり、原材料等の値上げに関して不安がある。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・例年4月は比較的好調な月であるが、今年は厳しい状況であった。4月後半の盛り上がりにも欠け、全体的に微減となった。
□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・今月は前年をやや下回る売上で推移している。単価の上昇に伴い販売点数が減少し、苦戦している。	

	□	家電量販店（副店長）	お客様の様子	・春需要以降、来客数が減少している。客単価は前年比112%で推移しているが、全体をカバーするまでには至っていない。
	□	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・以前から人口が少ない上に、若年層の流出が続き、雇用環境が厳しさを増している。仕事はあっても利益の増加につながらなかったり、仕事を受けることができない場合もあり、景気が良くなっていく気配がしない。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・来場者数が高い水準で推移している。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・今月は悪くもなく、特に変わりはないようにみられる。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前の年度末には、例年と同じで受注量は多かった。しかし、3月に入りメーカーから約8%の値上げ通知があり、4月の受注量は例年と比べて減少している。新年度以降、売上の先行きを心配している。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・物価上昇の影響で、し好品にお金を回す余裕がなく、酒類の購入には財布のひもは固いようにみえる。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが拡大している。
	▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・相次ぐ商品値上げの影響で販売点数が減少傾向にある。
	▲	コンビニ（総務）	来客数の動き	・2月以降、来客数の前年割れが続き、回復していない。値上げの影響が顕著であり、消費者はお買い得な商品求めて食料品の買い回り先を選択している。選択されている業態は、価格競争力のあるドラッグストアやスーパー、ディスカウント店などがある。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活需要が一段落し、来客数の減少に加えて販売量も減少している。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・生産が増えて登録はできているが、購入する人が減っている。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・思ったより3月と4月の客の動きが悪かった。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価上昇に伴って洋服の価格も上がっており、なかなか一般の方が購入しにくいとみられる。また、以前はすぐに埋まっていた商店街の空き物件も全く埋まらず、景気が良くなっているとは考えられない。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業（商品統括）	受注価格や販売価格の動き	・輸入原料価格の上昇が続いており、販売価格を引き上げているが、販売量が減少している。工場稼働のマイナス面も見越して販売価格を引き上げているため、利益確保はできている。
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・入進学、転勤などが重なる4月の新年度は年間で最も出荷量が増える。前年は新型コロナウイルスの感染状況が改善し非常に好調であったが、今年はそれに加えて、全国各地でインバウンド需要が急激に増えている関係もあり、全国の観光地での小売店は活況のようである。その結果、多くの小売店からの発注単位が大幅に増えている。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船関連以外の産業用機械関連の受注が依然として動きが鈍い。
	○	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・東京と大阪の顧客を中心に全社的にCMの受注は増えている。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、曇りや雨の天気が多かったことにより取扱数量が減り、単価が上がる傾向となった。ただし、量販店の発注価格は、過去の同期を参考としており、生産経費の上昇を加味したものではない。量販店は、必要な量を確保するため、仕方なく単価を上げて買うというのが現状である。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・我が国では大規模な工事が実施・計画されているが、慢性的なオペレーター不足や労働時間上限規制の影響を見極める動きもあり、需要が減少している。一方、海外ではオセアニアとアフリカを除く全ての地域で需要が大幅に増加している。

	<input type="checkbox"/>	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・最近はあるものの、決定しないことがあり、地震に対する心配が影響しているとみている。なかなか、大きな案件が決まらないため、景気は変わらないとみられる。
	<input type="checkbox"/>	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今のところ公共工事、民間工事共に受注不足である。
	<input type="checkbox"/>	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・雰囲気が悪く世界との差がある。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（総務担当）	それ以外	・ボランティア活動や地域のイベントといった社外イベントへの参加者数が増加しており、関係者の人の流れも前年度よりは増えているものの、直近の動きを見ると余り変動がないと見受けられる。
	<input type="checkbox"/>	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先から直近の動向について、受注は堅調であることを聴取しており、業績に大きな変化がない。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・円安の影響と物価高の影響を受けるとみられる。
	×	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・戸建て住宅の販売が減少したため、受注量が大幅に減少した。今後もこの傾向は継続予定である。加えて配送費のアップも業績にかなりの影響があるとみられる。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・前年度と比べて、新型コロナウイルス感染症の影響がなくなり、ゴールデンウィークに向けて観光業、特に宿泊施設はどこも満員状態となっている。室内外問わず公共施設やキャンプ場も予約で一杯の状況であるが、相変わらず人手不足もあり、十分なサービスを提供できる範囲で人員体制を整えている状況である。
	<input type="checkbox"/>	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣の依頼求人数は一定数あるものの企業側の求めるスキルと一致せず、就労につながっていない。
	<input type="checkbox"/>	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・中途採用で欠員補充や増員を図りたい地元中小企業では、人材の充足が長期的にできず苦戦している。そのなかで大卒新卒採用が始まり、中長期でバランスを取るべく新卒採用人数を増やそうとしているが、採用に応募する母集団の構築等に苦戦しており目標どおりの人数を採用することが難しい見込みである。
	<input type="checkbox"/>	職業安定所（求人開発）	求職者数の動き	・前月は新規求職者数が減少した影響で、新規求人倍率や有効求人倍率に維持、改善傾向がみられたが、4月に入ってから再び新規求職者に増加の兆しがみられる。一方で、新規求人数は伸び悩んでおり、結果として3か月前の水準とは大差がないとみられる。
	<input type="checkbox"/>	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・特に変化はみられない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・地方におけるマス広告は減り続けている。個人消費が伸びない限り民間の回復は厳しいとみられる。
	×	—	—	—